



# れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2011年1月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

## 相談支援センター 「がん・なんでも相談室」

地域医療部 福島 亘  
医療相談室部長



当院は平成19年より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けていますが、その指定要件のひとつに情報の収集提供体制として相談支援センターの設置があります。当初はふれあい地域医療センター内に「がん相談支援センター」を併設するかたちで対応していましたが、平成21年10月より当院1階のレントゲン受付前に専用の相談室を開設し、名称も「がん・なんでも相談室」と変更して、がんの特化した相談に応じています。このような独立した相談室を設置している病院は富山県でも少なく、専従の職員を配属し、ゆったりとした雰囲気での相談ができるように配慮しています。

この相談室では、一般的ながんの病態・治療法・予防・早期発見に関する情報の提供、当院や他の医療機関の診療体制に関する情報提供、セカンドオピニオン、緩和ケア・療養環境や介護・経済的な問題や福祉に関する相談など、がん患者さんの療養上のいろいろな相談に応じています。相談以外にも、相談室内にはがんに関する小冊子のほか、視聴や貸出しも可能なDVDを配置し、インターネットにて情報を検索することも可能となっています。また市民公開講座「がんについて学ぶ会」の開催や、近日に放送予定のがんに関するテレビ番組の紹介など、がんに関する情報提供も積極的に行っています。平成21年10月の開設後、徐々に相談件数は増加し、昨年10月は90件を超える相談がありました。相談内容別では、在宅療養に関することが最も多く、入院・退院・転院、診断・治療、病気に対する不安などの相談も多く、患者さんご本人だけではなく家族の方の相談も増えてきています。

「がん・なんでも相談室」の受付時間は午前9時から午後5時までで（土・日・祝日を除く）、直接来院されてもよろしいですし、電話（076-422-1112 代表）、FAX（076-422-1154）、Eメール（[shien@tch.toyama.toyama.jp](mailto:shien@tch.toyama.toyama.jp)）でのご相談にも応じております。ちょっとした疑問や不安でもかまいませんのでお気軽にご利用ください。

## Contents

相談支援センター 「がん・なんでも相談室」.....	1
研修・講演・勉強会のご案内.....	2.3
1月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
診療所・病院・施設訪問.....	4
“富山市民病院開放型病床の 登録医のご案内”が好評.....	5
「妊娠期の血糖管理とインスリンポンプ」 について .....	5
地域連携開放型病床講演会・懇親会の ご案内 .....	5
市民病院の敷地内に富山市救急医療センター 移転改築工事が進んでいます.....	6
院内エキスパートナース認定式が行なわ れました.....	7
第3回 プレストケア(乳がん看護) 勉強会を終えて.....	7
認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ ...	8
編集後記.....	8

1 . 地域連携・開放型病床症例検討会



2月

日時：2月8日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「側頸部まで気腫を生じた咽頭外傷の一例」耳鼻咽喉科 加勢 満

1歳10ヶ月女児の歯ブラシ外傷で、はじめキズが上咽頭に隠れて見えず、CTで側頸部まで広がった気腫があり、小児科ドクターと抗菌剤補液治療しました。

歯ブラシ外傷等につき、文献的考察をします。

症例検討

1) 1才男児の急性腹症：十二指腸潰瘍穿孔の一例

小児外科 山崎 徹 岡田 安弘

2) 虫垂真性憩室炎の1例

紹介医：高橋医院 高橋 芳雄先生 外科 天谷 公司

3月

日時：3月8日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「パーキンソン病の診断と類縁疾患」

神経内科 町谷 知彦

2 . 内科CPC



日時：2月8日（火）17：30～

場所：医局カンファレンス室

3 . とやまレントゲン読影会



日時：2月18日（金）19：00～20：00

場所：集団指導室

4 . 糖尿病研究会定例学習会



日時：2月3日（木）17：30～18：30

場所：集団指導室

テーマ 「糖尿病患者の心のケア」

講師 糖尿病看護エキスパートナーズ

副看護師長 塚原 美智子

6 . 地域連携学習会



日時：2月24日（木）17：45～

場所：集団指導室

テーマ 「透析療法における内シャント作成から管理まで」

（周手術期から維持透析期）

内シャント造設術から術後管理

呼吸器血管外科医師 峠 正義

透析患者の病態生理（内シャントを持つ患者の身体的特徴）

透析内科医師 大田 聡

内シャント造設術クリニカルパスについて

腎不全エキスパートナーズ

副看護師長 中田美智代

透析室看護師に求められる内シャント管理

透析看護認定看護師 松木 理浩

5 . 緩和医療委員会学習会



日時：2月8日（火）18：00～19：00

場所：集団指導室

テーマ 「症状緩和（呼吸困難・呼吸不全）」  
「補助呼吸」

講師 呼吸器看護エキスパートナーズ

副看護師長 赤田 文代

理学療法士 竹林由希世



病院ボランティア  
篠崎 佳子

## 7. 褥瘡対策学習会

日時：2月25日（金）17：45～

場所：講堂

テーマ 「栄養管理」  
「薬剤としての栄養剤」

講師 管理栄養士 中嶋 和代  
薬剤師 黒田 李花

日頃ケアしている患者さんの褥瘡について検討を希望される方は、褥瘡部の写真を3日前までにふれあい地域医療センターまでお送り下さるか、当日ご持参ください。

## 8. NST学習会

日時：2月28日（月）18：00～19：00

場所：講堂

テーマ 「急性期における栄養管理」

講師 公立松任石川病院  
外科医長 石井 要

## 9. 看護研修

《衛星研修SQUE Eナース》

日時：2月2日（水） 18：00～19：20

場所：講堂

テーマ 「医療における患者からの暴言・暴力等への対応」

日時：2月16日（水） 18：00～19：20

場所：講堂

テーマ 「マグネットホスピタルにつながる看護管理」

《新医療看護連携》

日時：2月23日（水） 18：00～19：30

場所：講堂

テーマ 医療の安全に関する研修「医療安全管理研修」



研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。

## ふれあいギャラリー

「れんけいと支援」にイラストを提供していただいている病院ボランティア 篠崎佳子さんのイラスト画と、長い闘病生活を送られ平成16年11月22日に当院でお亡くなりになったお母様 浅野初子様のお絵、親子作品展がふれあいギャラリーで紹介されました。



## 訂正とお詫び

れんけいと支援12月号1ページ巻頭の表中区分欄の記載表記を誤記載しました。右欄のとおり訂正しお詫び申し上げます。

誤  
正

県	病院	順位	県	病院	順位
1	熊本	済生会熊本病院	319	福井	公的病院
100	石川	石川県立中央病院	341	石川	自治体病院

↓

順位	県	病院	順位	県	病院
1	熊本	済生会熊本病院	319	福井	公的病院
100	石川	石川県立中央病院	341	石川	自治体病院

## 《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 70 政岡内科病院

今回は「政岡内科病院」を訪問させていただきました。

名 称	政岡内科病院
住 所	富山市下新町28 - 23
医 師	政岡 陽文先生（院長）
病 床 数	67床
診 療 科	内科・胃腸科・泌尿器科
施 設 区 分	療養型病床群併設病院

### 訪問記



政岡内科病院スタッフの皆様



政岡内科病院前景

雪がちらつく1月半ば、富山市下新町にある政岡内科病院を訪問しました。院長の政岡陽文先生はじめ、副院長の田近栄司先生、青木周一先生、草嶋師長に温かく迎えていただき、地域の医療情勢や当院との連携など様々なお話を伺いました。

政岡内科病院は、昭和47年に開業され、「地域に根ざした地域になくってはならない病院」を目指し、多くの患者さんの診療をされています。特に、医療区分が導入される以前から気管切開や中心静脈栄養などが必要な重症患者を受け入れているとのことでした。先生は「最近では医療処置が必要な重症患者がますます増えていますが、スタッフのチームワークで、患者さんが安心して療養に専念できる対応を心がけています」とおっしゃっていました。また、褥瘡委員会を設け褥瘡回診を定期的に行っており、入院患者さんには褥瘡の発生は認めていないと

のことでした。病院近辺の外来患者さんの受診も多く、地域の病院としての役割も大きくなっていると話されていました。

政岡先生はご専門である腎高血圧疾患や人工透析の通院・入院加療を中心に診療をされており、増加している慢性透析患者の治療で当院とも連携させていただいております。人工透析治療を行っている病院が非常に限られている中、「患者さんのために責任を持って診ていく」という心強い言葉が今も頭に残っています。透析室のベッドも常に満床に近い状態とのことですが、毎日忙しい中スタッフ同士が協力しながら透析業務を行っておられるとのことでした。

病院はとても明るい雰囲気に入れ、スタッフの方々も笑顔で非常に活気がみられました。今年の年頭の挨拶では「全ては患者さんのために」という意識について政岡先生がスタッフへ話されたそうで、「仕事は楽しく！」とおっしゃっていた先生から訪問した私たちも元気を分けていただきました。

当院とは富山市の中心部を挟んで少し距離はありますが、救急受診や転院などご相談する機会も多く、今後も連携を密にさせていただきたいと思います。お忙しい中、訪問させていただき、ありがとうございました。

## “富山市民病院 開放型病床の登録医のご案内” が好評

当院では、開放型病床登録医の医療機関情報のリーフレットを当院の正面玄関ホール近くに設置しています。作成にあたりましては開放型病床登録の先生方にご協力をいただきました。来院されるすべての方々に地域医療機関への理解を促進し、また、当院から地域医療機関へのご紹介を促進していくためにと設置しておりますが、大変多くの方々にご利用いただいている状況です。リーフレットに掲載されている情報は患者さんが紹介先を検討いただく参考になればと考えています。

登録の医療機関名を記載した棚は、リーフレットが不足しないようふれあい地域医療センターのスタッフが毎日確認しています。これからも開放型病床登録の地域医療機関情報が適切にお伝えできるよう、整備してまいりますのでよろしくお願いたします。



## 「妊娠期の血糖管理とインスリンポンプ」について

糖尿病研究会定例学習会を1月6日（木）に「妊娠期の管理とインスリンポンプについて」と題し開催いたしました。院外より8名、院内より20名、合計28名の参加があり活発な意見交換がされました。

妊娠糖尿病については昨年診断基準が変更され、「妊娠中にはじめて発見または発症した、糖尿病に至っていない糖代謝異常である。あきらかな糖尿病は含めない」と定義され、一般的な糖尿病と区別されました。妊娠前及び妊娠中の適切な血糖コントロールは、母体と胎児双方の合併症を予防するために非常に重要と言われていきます。妊娠経過に沿って食事・運動・薬物療法の細かい調節が必要となりますが、治療を続けながら妊娠を継続する大変さを理解して、無事出産できるように正しい情報と知識を提供していくことがとても大事です。

また、最近では持続皮下インスリン注入療法（CSII）が取り入れられており、CSIIについても概要の説明を行いました。使用している患者さんは、現在10名ですが、アラームの対処や入浴時の対応などを指導者側と共に学びながら意欲的に生活を送っています。

参加いただいた方からは「新生児低血糖の値や対処」、出産後に「高血糖がいつまで続くか」などの質問がありました。今後も新情報を盛り込みながら、地域の方々と共に糖尿病研究会を継続していきたいと考えていますのでよろしくお願いたします。



富山市民病院

## 地域連携開放型病床講演会・懇親会のご案内

12月号にもお知らせいたしましたが、下記のとおり地域医療連携開放型病床講演会・懇親会を開催いたします。一年に一度登録医の先生方と当院の医師や看護師、メディカルスタッフとの意見交換を身近に行える機会として、職員一同楽しみにしております。登録医の先生方には別途ご案内いたしますが、是非お越しいただきますよう、お願い申し上げます。

日 時：平成23年 2月 25日（金）19：30～  
場 所：ANAクラウンプラザホテル富山  
内 容： 講演会

テーマ：（仮題）救急センターの建設について

講 師：堀地医院 堀地 肇先生

懇親会

# 市民病院の敷地内に富山市救急医療センター 移転改築工事が進んでいます。

## 1. 建設の目的

富山市救急医療センターは、夜間や休日に初期救急医療を行うことを目的に昭和48年に開設されました。昭和53年に現在の丸の内に移転改築されて以来、富山市医師会が市から業務を受託し運営を行って来ました。

施設の老朽化、患者数の増加に伴う駐車場問題や近年の医療技術の高度化、医療ニーズの多様化など様々な課題があり、これらの課題に対応するため、富山市民病院に併設して「富山市救急医療センター」が移転改築されることとなりました。



雪に覆われた救急医療センター全景

## 2. 建設場所と完成予定

建設場所は、市民病院の第一駐車場南側に建設されます。昨年4月から、第一駐車場の出入り口や入退院入り口の改修を皮切りに工事が始まっており、本年7月末に完成し、秋には診療を開始する予定です。

診療を行うにあたり、市民病院の高度な医療機器を活用し検査体制の充実を図ることとしており、病院とは通路によって接続しますので、患者さんは雨風を気にせずに病院側へ検査に行くことができます。

## 3. 施設建設による効果

救急医療は、軽症患者などの初期救急を行う一次救急（富山市救急医療センターや在宅当番医など）入院治療を必要とする重症患者に対応する急性期救急医療を行う二次救急（市民病院や富山赤十字病院など）、二次救急医療では対応できない複数診療科にわたる特に高度な処置や重篤な患者への対応を行う三次救急（県立中央病院）に機能分担されています。

近年、軽症の患者が二次救急・三次救急病院に休日や夜間に集中するいわゆるコンビ二受診が全国的に問題となっており、これらの病院が本来の救急医療の提供機能を果たせないという状況は富山医療圏でも例外ではありません。

今後、救急医療体制が機能を発揮していくためには、救急医療を担う公的病院の負担を軽減し、本来の二次及び三次救急に専念できる体制整備が求められています。

初期救急や二次救急などそれぞれの役割を明確にし、救急医療体制を整備するためには初期救急医療を充実することが必要であり、初期救急の拠点となる「新救急医療センター」への期待は非常に高いものがあります。

工事期間中、ご来院の皆様にご不便をお掛けいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。



市民病院と救急医療センターとの接続通路



救急医療センター入口

## 院内エキスパートナーズ認定式が行われました

平成10年より当院では、特定の専門分野において優れた看護実践能力を有すると認められた看護師を「エキスパートナーズ」(当院独自の制度です)として認定しています。今年度は臨地実習指導分野で2名、ターミナルケア分野と感染対策分野で各1名をエキスパートナーズとして新たに認定しました。認定式は1月7日(金)13時30分より行われ、14分野、計55名となりました。

エキスパートナーズは、病院内で専門とする看護分野において活躍し、技術の向上や新人看護師の研修等、指導的な役割を果たしています。また、当院のエキスパートナーズの中からは6名の認定看護師も誕生しており、当院の看護の質向上を牽引していく存在となっています。

またエキスパートナーズは地域における出前研修でも活躍しています。出前研修を希望される方は、お気軽にふれあい地域医療センターまでご相談ください。

糖尿病看護	4名	ターミナルケア	8名	腎不全看護	4名
呼吸器看護	2名	皮膚・排泄ケア	2名	地域看護	4名
がん化学療法看護	4名	感染対策看護	4名	整形外科看護	4名
救急看護	5名	プレストケア	4名	集中ケア看護	4名
手術看護	4名	臨地実習指導	2名		



## 第3回 プレストケア (乳がん看護) 勉強会を終えて

平成23年1月20日(木)18時より「術後のリンパ浮腫ケア」について日本リンパドレナージ協会認定セラピストの当院看護師を講師として勉強会を行いました。雪が降り積もり天候の悪い日でしたが、訪問看護ステーションや地域の医療機関など院外の看護師10名、院内スタッフ11名の参加がありました。

講演内容は、乳がん術後に起きるリンパ浮腫の病態、ケア、複合的理学療法を学び、実際に圧迫療法の実演(指包帯の巻き方)と演習が行われました。

患者のリンパ浮腫を早期発見し治療を継続していく重要性を学び、より良い継続看護を提供していきたいと参加者一同が感じた勉強会となりました。

プレストケアエキスパートナーズ 織田 智詩子



## 医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

2月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	9日	石田	外科	7日	泉
	28日	石浦		9日、24日、25日	福島
	18日	寺崎靖	小児外科	14日	岡田
	18日	泉谷		14日	山崎
	25日	打越	整形外科・関節再建外科	4日・18日・25日	澤口
	14日	水野		25日	坂越
脳神経外科	25日	山野	精神科	7日	伊東
婦人科	24日	金枝	小児科	18日	橋本

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。



## 認定看護師とエキスパートナーズからのメッセージ



### 感染対策看護 エキスパートナーズ編

感染対策看護エキスパートナーズは、活動を開始して7年目になります。現在4名の看護師が、ICT（院内感染対策チーム）と共同で活動を行っています。感染対策において「院内感染拡大を最小限に食い止めることこそが私達に求められていること」だと考えています。

今年度の診療報酬改定により感染管理認定看護師（ICN）として活動することが入院時感染防止対策加算として算定可能となり、感染対策に対する院内の理解が得られるようになってきました。感染対策における新しい考え方を広めることは大変ですが、根拠を示しながら少しずつ理解してもらえよう活動していきたいと思えます。

また当院は、地域医療支援病院として地域の医療従事者の資質向上を図るための研修を行う



役割を担っており、感染対策学習会には院外から多くの方の参加を頂いています。また、ICNの出前研修依頼も増えてきています。地域医療機関の皆様とともに良質の医療を継続して提供するために私達エキスパートナーズができることをこれからも実践していきたいと考えています。

今後も日頃のコミュニケーションを大切に、強いチームワークで難題を乗り越えていきたいと思えます。

## 編集後記

雪が降って辺りが真っ白になり、時には本当にきれいだと思えることがあります。

先日、熊本市の急性期病院で救急紹介は一旦受け入れ、診察後専門病院へ逆紹介を行うシステムを構築しているという講演を聴く機会がありました。少子高齢化が続き以前のように経済発展が期待できない中では、限られた医療資源、限られた人を有効活用しなければならないため、熊本市のような対策が必要となってくるのでしょうか。

ここ15年ほど、若者が簡単に就職出来ない社会になり、街の賑わいは昔とは様変わりし、社会がどんどん変化しています。当病院が地域の病医院と連携し、お互いに支援することが今後ますます重要になっていくのではと思えます。

薬剤師 吉崎 洋一



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>  
がん・なんでも相談室：メールアドレス [shien@tch.toyama.toyama.jp](mailto:shien@tch.toyama.toyama.jp)